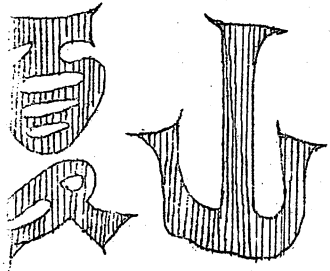


昭和41年度



合宿報告書

向後パーティー

北了; 常念へん

信州大学山岳会

長野予山岳部

1 合宿期日 1966年 8月4日(木)～8月17日(水)
実動12日 沈殿2日

2 構成

| | | |
|-----|-------|---------|
| C.L | 向後利彦 | (工.土3) |
| S.L | 宮下圭介 | (教.美5) |
| 装備 | 小林元紀 | (工.電2) |
| | 栗林良裕 | (教.通2) |
| 食料 | 宮下秀雄 | (工.通2) |
| | 久保田幸雄 | (工.化.1) |
| | 矢野勲 | (工.土1) |
| 医療 | 栗林良裕 | |
| 気象 | 矢野勲 | |
| 会計 | 久保田幸雄 | |
| 記録 | 宮下圭介 | |

<残留> 小林元紀

3 目的 体力養成とリーダーシップ^o及び
メンバーシップ^oの養成

4 場所 北ア 常念より剣岳

5. 合宿経過

- 8/4 松本——豊科——須砂渡～大助小屋～一ノ沢
- 5 一ノ沢～常念～横通～東天丈
 - 6 東天丈～西岳～赤鎌～殺生
 - 7 殺生～槍～西鎌～槇沢岳～双六池～大ノマ乗越～鏡子
 - 8 鏡子～弓折～笠岳～弓折～双六池
 - 9 双六池～三侯蓮華～里部カール
 - 10 里部カール～五郎沢～祖父沢～雲ノ平～岩菩沢～高天原
 - 11 湯ノ沢～立石～上ノ廊下
 - 12 上ノ廊下～立石～高天原～ワシ羽～三侯蓮華～里部カール
 - 13 次殿 (里部五郎集中)
 - 14 里部カール～太郎兵衛平～葉師岳～スコ～越中沢岳～五色が原
 - 15 五色が原～立山～剣沢
 - 16 沢冠
 - 17 剣沢～室堂～下春が原 (解散)

6. 記録及びコースタイム

8/4 ①

| | | | |
|------|------|-------|--------|
| 3:30 | 起床 | 7:50 |) 一本 |
| 3:40 | 寮発 | 8:00 | |
| 4:00 | 松本駅 | 8:50 |) 一本 |
| 5 | 朝食 | 9:00 | |
| 5:00 | | 9:20 |) 昼 |
| 5:15 | 発 | 10:00 | |
| 5:45 | 豊科着 | 10:45 | 大助小屋 |
| 5:55 | 発 | 14:00 | エッセン開始 |
| 6:15 | 須砂渡着 | 15:45 | 夕食 |
| 6:20 | 発 | 17:00 | ミーティング |
| 6:55 |) 一本 | 18:00 | 帰る |
| 7:00 | | | |

2日から全員松本へ集結して買出し、パッキングを行おう。3日は思誠寮に泊り、右り必す。出発をできる限り早くする。朝食は駅で各々おむいおむいのもを十分食べる。豊科から須砂渡まではわずか15分バスに乗るだけである。ここから初月に常念の肩までしょい上げるのはかなり困難である。しかも真夏の炎天下では体力の消耗がはげしい。肩までの計画

真夏の炎天下では 体力の消耗もはげしい。肩までは断念して 大助小屋から
 一ピッチ程のフ沢の川べりにテン張る。夕食後、ミーティングを行なうが、
 新人への注文しきり、新人の要望、意見は何もなし。宮下(秀) 大腸カタルの気
 がある。少々心配である。自分では大したことはないといっている。

8/5 ①

| | | | |
|------|-------|-------|-------|
| 2:00 | エッセン当 | 9:45 | 肩 |
| 3:00 | 朝食 | 10:30 |) |
| 4:00 | 糞 | 11:30 | |
| 4:50 |) | 11:50 |) 一本 |
| 5:00 | | -本 | |
| 5:50 |) | 12:50 | 東天丈 |
| 6:00 | | -本 | 14:40 |
| 6:50 |) | 16:30 | エッセン |
| 7:00 | | -本 | 18:00 |
| 7:20 | 水を入れる | 19:00 | 帰る |
| 8:50 |) | | |
| 9:30 | | 肩めし | |

ヘッドランプをつけて出糞。8月にはると、もう日照時間の短かさを感ずる。
 ノミをきれいにするところで自衛隊の一隊に出くわす。狭い道を良心的にゆずって
 くれる。ピッケルの横ゲシが気に入る。新人の疲労も教しかったが、このピッ
 チは、さすがにはかどる。最後の登りに久保田の呼吸速く、一本入れて昼食を
 とることにする。食欲は皆、十分ある。常念の肩にたどりつき、槍、穂高を
 眼前にする。写真ほどとりあってしばし疲れを癒す。肩よりスピッチで東夫夫
 の斜面にテン場を得る。雪簷の下から日中はこんこんと水が流れておりエッセ
 ン当は苦勞しいですむことになった。テン場に突しては幸、地ならしの跡
 もあり、グヨを除ては、高山植物の味き乱れており、絶好の場所を見つけたとい
 う感じである。羊糞ムードを楽しみ、エッセンの後は、ミーティングをして黙ま
 せうだう。縦走2日目とはウソみたい。

8/6 ①

| | | | |
|------|--------|-------|--------|
| 2:00 | エッセン当起 | 8:35 |) |
| 3:10 | エッセン | 9:30 | |
| 4:15 | 糞 | 10:20 |) |
| 5:05 | 大天柱 | 11:20 | |
| 5:30 | 大夫犬P | 16:00 | 殺生 |
| 5:45 | 糞 | 19:00 | エッセン |
| 7:35 |) | 19:30 | ミーティング |
| 7:40 | | -本 | 20:20 |

1ピッチで大天荘につく。パッキングを直して大天丈Pを往復する。プロッ
 ケン現象を見る。入山してから初めてのPである。左のさき道に急降を
 かねりのピッチでとぼけて。後半はピッチはあつた他のパーティーに先を譲られる場
 面もあつたがよく頑張り、2ピッチで前庭小屋。疲勞してパンなどのへ通らな
 いを分は休息の後西岳を下る。宮又榮蔵の午前で一本入れ。ニ>より。向後
 久保田と、宮下秀、天野、栗林、宮下田の2パーティーで行動する。新人、か
 り疲勞し、40分ピッチでも無理とぼる。一ノ俣谷が荒れている上に量
 がありすぎるといふことで、栗鎌をたどつたわけだが、やはりこれもシゴ
 かれることになる。結局、後半、はかどらず、殺生までとして、槍
 沢へ下りる。テニ場をサシ入りのカルピスを飲む。エッセン後、ミー
 ティングを行ない、人も脱落者を出さずに合宿をやり、通す
 気がまえと持ちはおす。

8/7 ① → ②

| | | | |
|-------|--------|-------|-------|
| 5:45 | エッセン当起 | 11:55 | 双六池 |
| 5:00 | エッセン | 13:30 | |
| 6:00 | 袴 | 14:30 | 大ノマ榮蔵 |
| 6:45 | 肩 | 14:45 | 弓折P |
| 7:15 | 槍P | 15:10 | 鏡子 |
| 8:00 | 肩袴 | 18:00 | エッセン |
| 9:15 |) 一本 | 19:00 | 帰る |
| 9:45 | | | |
| 10:40 |) 一本 | | |
| 11:00 | | | |

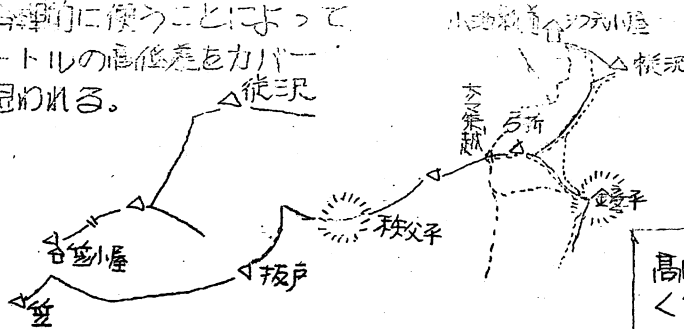
槍のピークを踏む。これから行く稜線が全部見える。快調なピッチで西鎌
 を飛ばす。3ピッチにて、双六池、たゞちにテン張り、食料をわけ、紅茶を
 つかしてパンをかじる。レモンティーはかく別はり、フライ、ツエルトを持ち、
 ツパーク食で鏡子へ入ることにする。テントの入口をとじて出発、サバサック
 の重さハンテコなり、双六池谷とほとんど高低差のない小池新道をタラタラ
 と間行くと、大ノマ榮蔵へ出る。ニ>から、弓折をまさながら鏡子へ達する道
 があるが我々は弓折のPからダイレクトに下る。この下りは、高低差300メ
 ートル近くもあり、うんざりさせられる。鏡子入口で野営することにして、ボ
 テと休んだ後、鏡子とほしかほるものかと、全員で見物に行く。6:00に
 帰って、各々、アルプスをあてゝめて、食う。

鏡子について

途中に鏡子を取り入れるには、並往復の附随的のものとして考えるのが自然
 である。ミーティングを行ない、鏡子の感想を述べてもらう。至は意見として
 々々期待はすれといふのが多かった。その理由としては、小屋ができてしま
 う。水が豊く

た。水が越え、片側は電キマンアを標にして、縦走路から下り過ぎる。崖を
 備でこ>に入ることは、インセンスである。山頂アユの東で夜は葉中功ゲキを受け
 る。一本では、崖の下の道に立つる木立や樹木は美しいであろうし、小屋は
 できて、まだまだ静かである。鏡子に入るには、ろ本の道があり、その時
 その時に合理的に使うことにより、

300メートルの高低差をカバー
 できると思われる。



高山植物は非常に少
 く笹岳への稜線に比べ
 たら向題にはらばい。
 クマヤサとコバイケイ
 ソーと、ほどよくま
 ばらぶ針葉樹だけがこ
 >の植物といっても過
 言でははらばい。

8/8 ①

| | | | |
|------|--------|-------|---------|
| 5:00 | 起床 | 11:30 |) 秩夫平 |
| 5:30 | アルファ米食 | 12:40 | |
| 6:40 | 三折P | 13:35 |) 一本 |
| 7:05 |) 一本 | 13:45 | |
| 7:20 | | 14:10 | ヌヌエ テン場 |
| 8:15 |) 一本 | 15:00 | エッセン |
| 8:30 | | 17:00 | ミーテング |

9:30) 笹岳
 10:00) 一本
 10:55) 一本
 11:05) 一本

昨夜はビパークをしたわけであるが、寒いのをこらえ
 てけっこう休憩ができた。ゴソゴソしたアルファ米も意
 外と旨。うまいうまいと食べて食う。今回も三折Pを通
 ることにする。新人もトップの経験が必要ということ
 で、ピッチごとトップを交代する。皆、個性のあるソッチ

でおもしろい。鏡子から各ロックで、笹岳、坂戸から遠いようで、意外と近い。
 帰除、秩夫平にて、ストップ、モックステップ、グリーンロードを行ぼう。体が
 冷えるのか、コンソメスープをわかし飲むと非常に旨い。帰日も飛ばし、
 ことに三折のピークからは、全員マラソンを行ぼう。ヌヌエ池までほんとはんと25分。
 食後、ミーテングを行ったら、一年生に、「寒い寒いと言ひ過ぎる。ビパークに
 寒いのはあたりまえ、もう少しがんばれよ」という注文だった。初めて一年
 生を自覚する。「行動中は苦しいがテン場へ着くと楽しい。」

8/9 ①

| | | | |
|------|--------|------|----------|
| 3:15 | エッセン当起 | 6:10 |) 一本 |
| 4:00 | エッセン | 6:20 | |
| 5:15 | 発 | 7:15 | 三俣道華 |
| | | 9:20 | 電工技術をみかた |

10:50) 一本
 11:30) 一本
 12:30 里部カール
 16:30 エッセン

そろそろ ラーメンも皆、食べるようになって来た。ことに今朝のカレーラーメンはよく売れた。三保連華の産種は非常に雪が多く、おどろく。こゝで アイゼンをつけて雪をぬきぬきに行こう。一年生は初めての

のアイゼンである。2時間はかり尻をぬらす。行動後のキュウリもかくべつ。里部集越で一本、広くて水もあっていゝところ。誰か「野球ができそうだ」という。カールについてテントも張った後の、層もまたいゝ。向後、宮下(主)矢野、3名は、ザイルをもって、その辺の低い、崖をよじりに行く。4:00、女子パーティーとの交信はある。そういうわけではないが、ナシがやたらと入る頃にはあった。

11:00 ①

| | | | |
|-------|--------|-------|--------|
| 4:20 | エッセン | 12:30 | 岩若沢 |
| 5:10 | 発 | 2:10 |) 一本 |
| 6:20 | 左保との出合 | 2:25 | |
| 6:40 | 湊流 | 3:05 | 高天原 |
| 7:00 |) 祖父平 | 3:10 | 湯ノ沢 |
| 7:25 | | 4:00 | 温泉につかる |
| 8:30 |) 一本 | 5:00 | ビバク食 |
| 8:45 | | 6:30 | ぬる。 |
| 9:20 |) 雪ノ平 | | |
| 11:00 | | | |

11日は計画の核心。里部湊流一帯の溯行が始まる。天候は、23日は充分持ちそうである。テン場の北側を下っている五郎沢右保をたどることにある。左保との出合の午前が川さは下が多く、急流になっている。こゝを過ぎると川幅は広くほり広いところは20mもある。平たんとはり力なりのボツキでとばすことができる。6:40、湊流、こゝより、祖父平に向ってさかのぼらねばならない。20分程上流に向くと、左側から沢がでてくるが、この沢ではなく次の沢の出合にケレンがあり、これが祖父沢である。右側の土手を登ると祖父平が南に見える。この平は、猟師がよく入り込むところだそうである。キャンプの跡もある。太陽が木立の南からさし込み神秘的な見えがある。祖父平は溯行しやすく、道と1つでもいゝほどで、完全溯行する。この沢は、雪ノ平のテン場へつきあげており、明解な沢である。雪ノ平、雪のようほダヨーンとした溶岩台地でキバツは名の庭園が多くあり、高山植物も豊富である。ギリシヤ庭園の辺で一本、写真を撮ったり、パンをかじったり、昼寝をしたりする。11:00、出発。岩若沢の午前から岩若沢に入る。水量は、祖父平とは向問題にはならない位である。進行方向に、藪師岳がその大きさはスケールを、そびえている。この沢の溯行はかなりの時間を費す。

あたりが開けたところで 沢から離れて右へ入ると高天原である。ここから10分程で 温泉沢のはたにある鉾山小屋に着くことができた。全員又句ほしに温泉に入ることに決めた。鼻うたまじり温泉につかる。皆 アルフ米を食いほがら明日の勉強をする。

8/11 ①

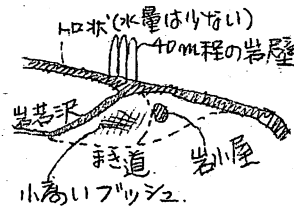
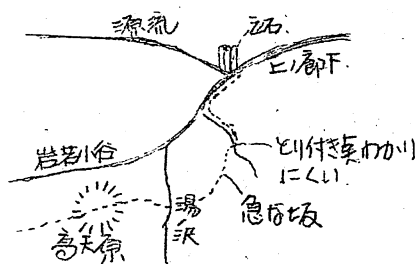
- 3:20 エッセン起
- 4:00 エッセン
- 6:00 糎
- 7:20 之戸
- 7:30) 一本
- 7:40) 一本
- 10:00) 一本
- 10:20) 一本
- 11:30) 一本
- 12:00) 一本
- 2:30 (金作谷出合の辺) 引きかえす
- 4:00 紅茶をわかれてのむ。ヒツパーク食

双六谷 里部五郎 雲ノ平 は 高山植物といつてもいちはよく見かける。ミヤマキンバイ、ハクサンイチゲ、コバイケイソウ、チングルマ、ミヤマ キンポウゲ、それにツガヤクラというように例外をほいだが、高天原は、ニッコウキスゲの、オレンジ色と、ワタスゲの白である。

- 6:00 ミーテング
- 7:00 帰る。

めしは早く食ってしまったが 徒歩するには少々早すぎるということ。6:00 まで待機。かほりのピツキで飛ぶ。1時間30分の地裏をへる。あむに之戸は通過。上ノ郎下へ入り

込む。右岸へ左岸へと徒歩をくりかえし、ガイルを使ってトラバース。結局前進不可能となり。この日は、左岸の岩の上で火しほがらヒパークすることになった。明日は、ワシバを径由して里部カールへもどることにする。



(五石付近)

カールへもどってからの反省であったが、未知の場所へ入る時にはピツキごとに地図を見ながら休むということだった。

8/12 ② → ③ → ④

- 7:00 起きる
- 7:40 エッセン
- 8:15 日が照出す
- 9:00 糎
- 12:00) 一本
- 12:30) 一本
- 1:45 之戸
- 2:50) 高天原
- 3:00) 高天原
- 4:00) 一本
- 4:10) 一本

— 7 —

6:25 ロシバP
 7:05) 三侯蓮華の下
 7:15)
 8:15 里部集起
 9:40 カール着
 11:30 帰る

上ノ廊下で多くの時間を費してしまった為にかべツ
 々径由は不可能と化した。よって、高天原からワ
 シバをまわることにする。立ちまち 4圃の徒歩を
 経て1:45分着。こからは、早く里部へ着くこ
 とだけを考えればよいのである。岩若集起の午前に
 雷とともほうタエに会う。体が冷えるので、フライ
 を張って、ミルクをのむ。速いピッチで、ワリモ、

ワシバをたちまちこえ、三侯蓮華の下で一本、こよりヘッドをつけて、カール
 へ向う。里部集起で、一本入れて、カール着はほとんど9:40。ごころうさんでし
 た。

8/13 ①F4 ● 氷殿
 体をオーと考へ昨日までの疲勞を慰む為に氷殿とす。



層めしを食ってから左図のごとく里部玉即
 集中とシヤれる。2:40 全員Pにて
 集中。パシビジュースを食う。
 5:00 エッセン 女子パーティーとの
 交信良好。五色からのたよりうれしく受け
 る。6:00 パインを食う。

8/14 ●→①→①
 3:00 エッセン当起
 4:00 花
 5:00) 一本
 5:10)
 6:20) 一本
 6:30)
 7:25) 太郎小屋
 7:35)
 8:50) 一本
 9:00)
 9:50) 薬師P
 10:20)

12:00) スゴ小屋 6:00 ミーテング
 12:30) 9:00 帰る
 2:00) 一本
 2:25)
 3:25) 一本
 3:40)
 4:20) 一本
 4:30)
 5:15 五色が原

一日中、日はほとんど「照らす」温度が「エラオ」たッ
 歩くには絶好の日よりにある。五色で氷殿中の女
 子パーティーと交信しはがら、ボンスカ飛ばす。
 氷殿の後全員体はよい。宮下(左)の大陽カタルもい
 つのこしが、薬師のPで、ほゞ、五色までの可能
 性がえつ。熱中求の登りはシゴかれたが、こを
 登り切るとあとは、五色の眼前にある。越中沢

のPから 2ピッチで五色 女子パーティーのエッセンを喜こんで食べこぼした。 (「精神的なものでも人様にいくんか」と悪った) とは一生の并、男性の食いかけん、おどろくばかりだが 女性の食いかけん、おどろく限りである。

8/15 ①

4:00 ニッセン 当起

5:00 エッセン

6:15 巻

7:20) 一本

7:35) 一本

8:05) 一本

8:15) 一本

8:50) 一本 一越

9:00) 一本

10:20) 一本

11:30) 一本

12:30 飯沢

2:30 飯沢にて雪上訓練

4:45 エッセン

5:20 ミーティング

4:55分に女子パーティーを見送る。我々は1足後に出ることにする。獅子の上から鏡を見る。一越は、山といっても別世界。ものおごい人。うんざりさせられる。大丸山で扇めしを食う。別山をも

のおごいピッチでまわし、飯沢のテニ場着。12:30、2:30から、雪上訓練に向う。栗林が 新人合宿へ出てほしいので、合宿中時間があればこれをやってきたが、彼の努力にもかゝらぬ。片手かしのめられてマニは能はり。ストップ訓練も無理というところ。

8/16 ② 風強し。 氷殿。

朝からよく降る。飛び出した他パーティーの残物をひろって来ては食い続ける。10:30 野村OB。下山の途中お目みえする。

5:30 エッセン

9:00 泊る。

8/17 ③ 時々

予備日不足。気圧の急接近。新人のフラッキ。等から。早月尾根下山をとりやめ。室堂にとる。

4:50 エッセン 当起

6:00 エッセン

7:00 巻

7:50 室堂テニ場

8:05) 室堂

8:45) 室堂

解散。

御前小屋をまたぐまに通過して。雷鳥沢を下る。全員 快よい顔色。少々晴れると早月尾根もうらめしくなる。テニ場で、北日本放送のインタビューに向後し。一役買う。室堂 事实上解散。大過なくよかったです。

各係反省

イ 整備係

栗林

系の牛落ちで不都合であった矣、今後こうしたらよいのではなにかと想うこと
を書きます。

1. 出発前のテントの臭樟を入口でヒモの切れているのに気がかず、合宿中も
上半分しかしめずに使用していた事について係の不注意を反省します。
2. カン切りは国産に入れておくべきでした。
3. 今回の合宿は川の渡渉等の為特に必要を感じたのでありますが大小各種の
厚めのポリール袋は多しに役立つものと思います。
4. 飯沢で吹かれた風雨でハリツナが切れたり又、切れそうになつたりしまし
たが、ハリツナの十分なる予備の必要性を感じました。
5. 色 Asmen の時、野菜等を切るのにナベのフタをマナイタ代りにしましたが
小さくてあまり実用的ではなかったような気がします。全部、木のフタにあ
れば少しは能率的であると想います。
6. ローソク燵の研究をする必要がある。
7. 油類でよごれた食器はきれいになりにくく洗育の必要性を感じました。
8. カトコセンコー等の殺虫剤を持って行くこと。

ロ 食料係

久保田

初めての食料係で計画がたいてい人ごとであつた。しかしだいたいは計画どおり
いってよかった。氷見の小麦の量が1人当り150g で少なかったがこれか
らはもっと多くす小さだ。ビバーク食に例しては 思ったよりうまかつたが
朝はよいが夕食としては少なかった。しょう油をもつて行くべきであつた。
飯沢で食糧が豊富だつたのは打ち上げの時であつたのでたいていよかった。
マカロニ、ラーメンのフツ汁を多くあることである。

ハ 燃料係

栗林

1. 薪を使用の日が2日あつたせいか、多少カソリンはあまりましたが
0.15g/人 で大体よかったと思ひます。
2. メタは弱々弱使用したので多少多めでした。
3. ボソリンの運搬についてはこぼれたり、ガツクの中においが残つたりし
ましたが、カッチリしめる工夫がいろいろと思ひます。

ニ 医療係

栗林

まお最所に行動に支障をきたさようば大きな事故がなくつてよかったとおもひま
す。

1. ゼローシは1パックではクジキ等のケカ人が出れば、たりなくつてしま

う量でものでもっと多くもって行くこと。

2. 虫さ>れが多く レスタミンの使用が多かった。

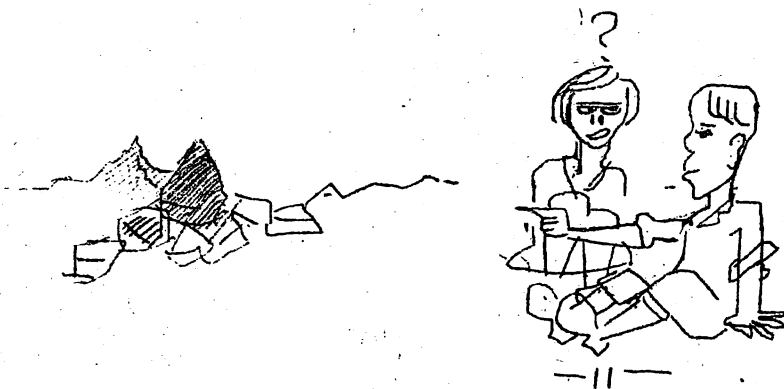
3. マメの治療は、あまり行動的日治療ができていなかった。

二、気象係

矢野

私は気象係ということでこんどの山行に出たのです加その役目も十介はたじなくとも申し分けなようです。こんどの山行中気象係として料のしたことと言えただ毎日の天気と4時になったら天気図を作ることにしなかつた。こうは言っても料はこれより外は何をするべきか知らなかつた。全く研究不足だったことをやれながら残念に思っています。合宿の終わった今でもさえも気象係が何をすべきかわからないのです。もっとよく考えてこれから先の山行をよりすばらしくなっていくような係にしたいと思っています。

装備係で、徒歩の際にもものをぬらさずとはかりビニール袋を強張してますが、本来上ノ廊下へ入る計画はどほかつたので、無理もない話です。上ノ廊下で、マンツ一枚で、信大パンツ作戦とやらを展開し、いまでも、いやある人は頭の前までぬらして頑張った姿が目にかかひます。自然にもどれを強張して、あらわな姿で徒歩しました。私にはありません。いや、里部の清らかは自然と実にマツ干してました。



7. 合宿反省

合宿の反省

CL 向後利彦

今回の合宿は心から山を楽しむことができたということだけでも僕は成功だったと思う。無論、合宿の目的である体力養成、メンバーシップ養成、パイオニアスピリットの発揚ほどこれで十分というわけをばはいが、今合宿のノルマは達成できたと思う。

新人に望むのは細かく上げればあるが、きつと精一ぱいやったことだろう。心から歩を続けていけば余裕もでき、よく休んで行くのは必要であるから肉體としてはいい。たゞ、山に魅力を感じても感じられ、自分の夢を持ち、それをだんだんくらしませて行く。山岳部員に育ってほしい。その為には何をも栄養にして抱える人間になることが必要だ。そうすれば、上級生に比べてもシュウト爺父のようにほらほらでいられるだろう。

合宿の反省

矢野 勲

縦走の反省だ。感想だといってはまだ、私の頭の中には、すこし前に山からおりてきたようぼろがして、ゆっくりと考えることができませんでした。実際には山から下りて一週向程に休んでいます。でもこの下界での一週向がほんとすばらしかったことかわかりません。たゞ下にいるだけで楽しかったのです。映画を見たり、又、松本駅の前にたむろして、女の予の後姿に目をそぐだけですが本当にうれしくて仕方ありませんでした。こういうこともいつと山での生活がつまらなかつたように聞えるかもしれませんが、縦走中の生活は不変のほろほろしいものでした。大変な実したものでした。少くとも下での生活に比べて、始めの2、3日の苦しさは忘れません。一歩一歩踏み出して行くことが、ほんたにかたはたのことであり、だんだん目的地から遠ざかって行くのではなかつたらうか、ほどと思ったり、遠くのうから聞えてくる沢の音がにくらしくてたまりませんでした。でもどうやら飯のふところまではいれたことはおぼろげにうれしい限りです。考えてみますと、鏡子と里部のピザークがやきついてはほれませんが、アヨに悩まされながらアルファ米をかえて10分向、待つ時の長さは、重たい荷物をかついて10分向歩くとときと同じ程長かったです。又、ハソよりも深い徒渉に一時きんちようして水の中へ入ったものでした。又、ほらほら歩いて、ほんや川歩いている時、急に目の前にあらわれ、高天原の景色は何とも言いがたいものでした。断片的なものになってしまいましたが、どうもまとめることができなくて、たゞ常念越えや、東嶺や中沢の登りはまだうんざりしています。自分はおそこで何故もう一かん登りできなかったのかと思うと残念なようぼろがします。最後に自分のようぼろ弱体なものでも最後まで引っぱって行かぬばほらほら上級生の苦勞がわかります。

夏山縦走

久保田幸雄

この縦走で僕は自分自身の弱点というものをしっかりと知ることができた。それを克服する為に山岳部へ入ったようなものだが、常念の登り、東鎌の登り、薬師の登り、越中沢の登り、僕にとっては、一つ一つが試練であった。山から帰って来たときには、何かつきものが落ちたように無気力になってしまった。クラブバックで、笹岳往復や高天原に行ったときには、キスリ、クセしよ、ゆほ、いらいれたのは、ほんとうにたのしかった。しかし、里郡でピクニックした時には、何か川の中へ引きずり込まれるような気がした。今は、たゞ山に行っただけという感じがしない。もっと時間が経てば何かほつきりしたものをつかぬると思えます。

仮面の社会

栗林良裕

「自分が自分を知る」一見簡単そうに見えてこれ程むずかしいことがあるだろうか。よく人は他人を自己主義に扱って、何と云うか、その人は、ほんとうに自分がわかっているのだろうか。大部分の人はそうではないと思う私は、自分がどの程度性格がわかっているつもりだった。だがそのかわりに性格があまりにもわかっていることにおどろいた。それは今回の合宿がきっかけであった。人はほんとうに苦しい時、自分をなくあつてほしいのではないだろうか。仮面をかぶっていることができないのではないだろうか。その仮面をぬく時に自分の性格がわかるような気がする。また同じ条件の下にいる人の性格もわかるような気がする。いや他人の性格がわかるといふのは、うそかもしれない。他人の性格を見ぬく——いや実際は自分の性格を見つめていけるのだ。合宿中、私は先輩や同年の連中の性格がわかったような気がした。だが今考えて見ると、何か自分の性格を見たような気がする。私はここで言いたいことは、仮面をぬいた人間どうしが、しょに生活するということは自分の性格を見ぬく為には、人よ、機会であるということである。だから、大いに他人の性格を見ぬくべきだと思う。それは結局、自分の心の内に、ひそむ足変をはかっているのであるから、肉体的に自分を見つめていけるのである。だから、合宿中に他人の性格がわかったほどと決して言えるものではない。ましてや、そのわかったとかいう、他人の性格を日常生活で考慮していたらその人にとっても、また他人にとっても大いに不幸なことであろう。ほせられて、人間は、苦しさが去るとおと、仮面をかぶるからである。現代社会において、仮面はあまりにも必要である。私は仮面を否定してほしい。人間社会は、仮面をかぶったみにか、顔の人間の集まりであるからだ。私は今度の合宿で、体力的な力は、のびたかもしれない。だが体力だけが、合宿の目的ではない。自分を見つめる機会を得る。こんなことも、大きな目的としてとり入れるのもよいのではないかと

夏山感想

宮下秀雄

里部と雲ノ平は、この縦走中の最大の魅力であった。そして最盛期にもこんな静かな未知の所が残っていたかと思ひました。周囲の山々の険しさと対象的なその中での一時は、何ともいえぬものであった。やはりこの合宿が最後の合宿となってしまった。再び、この様に、これらの山々をおとすれることができるとは思つてはいない。入山前、その決心をしていたはずだった。そして最後の山行にふさわしいもの、悔いの無いものにするつもりだった。しかし心残りな多分にある。自分の弱さを知らされる。本当に山へ行きたかったと言ひされば、ある流れにはまって、それを行つていく感じだ。しかし、それによつて得たところのものは、大きい。山ばかりがすべてではない。今までのものをもっと他の方向に向けて新たなものを求めていく。これでいいと思う。信州は山の口だ。今後もう少し山行はできる。そんな時、昔の感激を思い出しながら歩くことだろう。今思うに、今までの合宿の中で、今日の縦走が一番楽しかった。

夏山感想

宮下圭介

サブリーターの任務はと云々しても、これは、その任務のあいまいさから、その人、その人の仕事のやり方は当然違つてくる。でも正直いって、私はサブリーターの任務は自分にとって大役とまもつては、リーダーのわけにかくれて、安易な気持ちでいたことを認めなければいけません。今年の夏山でヒーロー言つていたものが、新人の指導とはおそれ入つたことである。一言、新人に教える言葉も、これは昨年、自分が先輩から受けた言葉であり、それは今の自分にとつても課題であるし、それを、あえて高灯棚はならない。山行中、過激的にこれは私の頭の中にあつた。新人に対して、私が、どうの、どうの、というのは、もう酒の場に行つて、山に打ち込むということは、他人の生活が背後にあるから、その人の自覚のみだろう。アルペニスムに関しては、新しいやり方を多くに取り入れるべきというのは当然のことであるが、いつも過去のやり方を、意味を、同価値をもつて、意識すべきであると思う。それにしても、今日の合宿は楽しかった。今でも思い出するのは、里部の清浄な水に洗われた岩と、我々のそこでの徒渉、一年生のしどきである。



今度の山行は、独特なものがあつたので、記録も、そういった特長を出さずには、できなかった。こんなものになつてしまいました。笹往復、里部清流、に拘つては、まだまだ書くことがいっぱいあるはずだが、北アルプスの、この場の、たいら、特集としても、おもしろいはずだ。た人ですが、系のタイムズです。

